

授業科目名： バドミントン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：升佑二郎、 林直樹、渡辺英次 担当形態：オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>バドミントンはラリーを通じた「コミュニケーションのスポーツ」である。道具を介した意思伝達、会話を実践し、現代社会における人と人とのつながりについて考える。また、目的遂行と意図がラリーの帰結となることを知り、自己の主張と意図を体現できるようにする。</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) ネットを挟んでシャトルを打ち合い、バドミントン特有の駆け引きやスピード感を楽しむ。</p> <p>(2) ルールを正しく理解し、試合を自分達で進められるようになる。</p> <p>(3) 運動学的あるいは力学的な観点からスポーツを見る経験をする。</p> <p>(4) 起こり得る危険を回避し、安全を管理していく方法を理解する。</p> <p>(5) バドミントンを通して主体的で対話的な深い学びを習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>バドミントンは「レクリエーションスポーツ」や「生涯スポーツ」として非常に親しみやすいスポーツの一つであり、「レクリエーション」として誰もが一度は触れたことのあるスポーツだと考えられる。しかし、競技規則に則った「競技としてのバドミントン」を経験した人は希有といえる。そこで本授業はバドミントンを題材としてルールや歴史を正しく学び、「生涯スポーツ」の中での位置付けを一段昇華させること、そして楽しく積極的に運動を行う姿勢を養うことを目標とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：バドミントンの歴史を誕生から現在の競技までの発展について、追体験する 【独り遊びから、アソシエーション・ルールのバドミントンへ】</p> <p>第2回：基本ストロークを体験し学習する 【ドライブ、クリアー、ヘアピン、ドロップ、スマッシュ、レシーブ、プッシュ】</p> <p>第3回：オーバーヘッド・ストロークの標準化に必要な「行動」を考える 【視機能のトレーニング、空間と運動の予測、「衝突（コンタクト）」の学習】</p> <p>第4回：ストローク・プロダクションに有効なグリップや構え、打球方法を考える 【運動構造の理解と実践】</p> <p>第5回：目的達成の為にストローク・プロダクションを考え、ストローク・ムーブする 【何が目的かを考え、目的達成の為にどこに打球し、どこにどのように動くかを考える】</p> <p>第6回：ルールの学習（1） 【サービスと得点の関係を学習し、理解する】</p>			

第7回：ルールの学習（2）

【フォルトに関して学習し、反則と設定されている意味を理解する】

第8回：シングルス・ゲーム

【トラベリング技術を学習し、実践する】

第9回：ダブルス・ゲーム（1）

【チームとしてディフェンスとアタックのバリエーションと陣形を理解して実践する】

第10回：ダブルス・ゲーム（2）

【段階的指導を学習し、実践する】

第11回：ミックスダブルス・ゲーム

【男女混合種目を体験してそれぞれの役割を理解し、実践する】

第12回：トリプルス

【3対3のスピーディーな展開を体感し、レクリエーションとしての可能性を図る】

第13回：団体戦

【個人種目における団体戦の意義と共生観念に関して学習する】

第14回：安全管理、危機回避義務指導

【安全管理に関して再考する（スポーツ現場における怪我予見）】

第15回：まとめ

【バドミントンの楽しさと課題についてまとめる】

定期試験（実技テスト）

スクーリングでの学修内容

全 15 回すべての内容を行う。上記した授業の到達目標及びテーマをよく理解した上で行動できる基礎を築く。実技に関しては、運動の構造をしっかりと理解する。

- (1) ストロークとムーブの理論・方法と運動構造の理解
- (2) シャトルの飛び方と「打つ」運動の現象理解
- (3) ルールの把握とゲーム進行の理解
- (4) 危険回避、安全管理に関する知識獲得
- (5) 指導理論と具体的な指導方法

(主に、ダブルスの試合を自分でコントロール出来る様にする。)

教科書

大束 忠司『見るだけでうまくなる！バドミントンの基礎』ベースボールマガジン社 2019年

参考文献

下記参考文献から、プリントを作成して適宜配布する。

(1) 基本的な技術（教科書と同等の扱い）：

①池田信太郎『いちばんやさしいバドミントンの基本レッスン』新星出版社
2011年

②ヨネックスバドミントンチーム監修『バドミントン上達テクニック』
実業之日本社 2010年

(2) ルールの理解：

①日本バドミントン協会監修『観戦&プレーで役に立つ！バドミントンのルール』
実業之日本社 2016年

(3) 運動構造の理解：

①日本バドミントン協会『バドミントン教本 基本編』ベースボールマガジン社
2001年

②阿部一佳、渡辺雅弘『基本レッスンバドミントン』大修館書店 1985年

※(3)の2冊は2006年(ルール改正)以前の本なので、注意が必要

(4) 専門的指導理論：

①阿部一佳、渡辺雅弘『バドミントンの指導理論Ⅰ 改訂版』

日本バドミントン指導者連盟 2008年

②片山卓哉『バドミントン ボディ革命』ベースボールマガジン社 2013年

③片山卓哉『バドミントン ボディ革命 体リセット 57』

ベースボールマガジン社 2015年

(5) 歴史詳細：

①阿部一佳、渡辺雅弘『バドミントンの歴史に学ぶ』日本バドミントン指導者連盟

2005年

(6) 解剖学関係：

①中村千秋、竹内真希訳、Clem W.Thompson,R.T.Floyd 著『身体運動の機能解剖』

医道の日本社 2002年

(7) 部活動指導に活かす指導書：

①藤本ホセマリ『差がつく練習法 バドミントン 最新式・基礎ドリル』

ベースボールマガジン社 2015年

②米倉加奈子『差がつく練習法 バドミントン 米倉加奈子式攻め勝つドリル』

ベースボールマガジン社 2015年

(8) DVD

①升佑二郎『日本初のバドミントン博士！升佑二郎の最新科学トレーニング』

T&H 2014年

学生に対する評価

スクーリング評価(20%)、実技評価(80%)の割合で総合して評価する。